

認定番号：105 サポーター名：一般社団法人 北部九州河川利用協会

▶実施内容の分類：（5）流域の上流地域と下流地域の連携を推進する取組

取組実績

タイトル:真・地方の時代を考える流域情報交換会
 ～流域・地域を知り、流域の未来を考える～
 日時:2025年11月6日（木）
 主催:一般社団法人北部九州河川利用協会



当協会では、河川を通じて流域、地域の将来について考える機会を提供することを目的として、流域の首長による情報交換会を開催しています。この交換会は、現在の人口減少や気候変動、災害の多発など河川や流域、地域が抱えている課題を踏まえて、今後、ウェルビーイングを高めていくうえで地域社会をどのような方向に持っていき、そしてそれを次世代にどのようにつなげていくか、そのことを考えるきっかけとなることを期待して行っています。関係する自治体等が集まって、川を活かした地域づくり及びその実現のための情報交換や議論は、非常に有意義なものとなりました。

認定番号：105 サポーター名：一般社団法人 北部九州河川利用協会

▶実施内容の分類：（2）流域治水に関する広報資料の配布・掲示、アナウンス等

取組実績

タイトル: 地域の防災フェア 親子de防災体験フェアーに出展

日時: 2025年5月24日（土）・25日

主催: We Love久留米協議会 福岡トヨタ自動車株式会社 久留米市



福岡県久留米市の西鉄久留米駅前ロータリーにおいて、We Love久留米協議会が主催する防災フェアに出展しました。当日は、流域治水に関する広報資料の配布を行うとともに、「重ねるハザードマップ体験コーナー」を実施しました。

久留米市は筑後川が流れる街であり、近年は内水氾濫による浸水被害も多く発生しています。そのため、例年多くの方に体験していただき、身近な地域の水害リスクを知る機会ともなっています。

当体験を通じて、参加者の皆さんが日頃からの「備え」の大切さを認識し、防災意識を高めるきっかけづくりとなるよう取り組んでいます。

認定番号：105 サポーター名：一般社団法人 北部九州河川利用協会

▶実施内容の分類：（2）流域治水に関する広報資料の配布・掲示、アナウンス等

取組実績

タイトル: オリジナル流域治水説明資料の作成、配布



「流域治水」には、行政だけでなく、あらゆる「関係者」が連携し取り組む…とありますが

わたしたちには、
なにが出来るのだろう？



① 「流域治水」について、一緒に学んでいきましょう

毎年のように、豪雨が発生し、全国各地で甚大な水害が発生しています。今後、こうした状況はさらに激しくなる可能性があり、これまでの対策だけでは防ぎきれない事も懸念されています。

それでは、これから私たちはどうしたら良いのか？と不安になりますよね。その答えは、河川の流域全体で、みんなで水災害対策に取り組む「流域治水」にあります。

しかし、「流域治水」と聞くと、聞きなれない、なんだか難しい言葉だぞと感じてしまうのではないのでしょうか？これからの治水対策のキーワード「流域治水」について、一緒に学んでいきましょう。

流域治水は「行政」だけが取り組む事ではありません。 **自分事への転換**



② 「流域」という言葉を聞いた事がありますか？

雨が降ると、雨水は土地が高い所から低い所へ流れ、近くにある川に集まります。そして、他の川と合流し、大きな川となって、海へ流れ着きます。

降った雨が、ある一つの大きな川（一級河川）に集まっていく大地の範囲（川だけの話でなく、そこに含まれる町などもすべて含んだ範囲）の事を「流域」といいます。

皆さんが住んでいる町やそこにある民家・田んぼ・商業施設・学校・工場なども、すべてが、どこかの「流域」の中にあります。

他にはどんな事が出来るかな？

LOVE OUR RIVER ♡

「流域治水」はまだ始まったばかり。

行政が行う事から、私たちひとりひとりが出来る事まで「小さなことからコツコツと」幅広くあります。

「こんな事も出来るんじゃないかな？」と話し合って、みんなで協力し合って、河川との向き合い方・かわり方を学んでいきましょう。

私たちの暮らしにかけがえのない川、脅威になる時もあるけど、やりがいや楽しみもある事で「やっぱり、川が好き」そんな思いが生まれてくると良いですね。

「流域治水」を説明する資料は、行政関係者以外の方には専門用語が多く、地域の皆さんに「自分ゴト」として受け止めていただきにくい面があります。そこで、できるだけ難しい言葉を使わず、わかりやすく伝えるオリジナル資料全28ページを作成し、防災イベントなどで活用も行いました。